

令和２年度 自己評価表（最終評価）

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 確かな学力の育成	○学力の向上	・アクティブ・ラーニングに関する研修を全教科で取り組んでいる。 ・ICT機器を活用した授業等に取り組んでいるが、タブレット等活用率が76%(R1)である。 ・評価方法を研究するとともに、更なる授業改善を推進する必要がある。 ・高度資格取得の合格率は58%(R1)である。	・組織的、計画的に授業改善を推進する	・各教科一人以上がアクティブ・ラーニングの公開授業及ルーブリック評価を実施 ・外部講師招聘による授業研究会を実施	C	・公開授業は実施できたが、ルーブリック評価を取り入れた授業実施は3教科であった。 ・公開授業研究会を外部講師をリモートで招聘し実施した。	C
	・基礎的な知識および技能の向上			・ICT機器の授業活用が教員全体の80%以上となるよう研修等の機会を確保	B	・ICT機器の授業での活用は教員全体の84.2%。ICTの活用研修を3回実施し、GoogleClassroom活用とBYODによる授業展開を始めた。	A
				・主体的に学習に取り組む態度の育成	・コーチングスキル向上による授業改善の更なる促進	C	・本年度はコロナ禍で県外講師を招聘できず、コーチングスキル研修が実施できなかった。
	○思考力、判断力、表現力の更なる向上		・系列の特色化と資格取得を促進する		・各系列ごと学校独自事業の充実、特別支援学校との交流	B	・学校独自事業は、施設実習を除き、感染症対策を行い実施した。特別支援学校との手話交流はリモートで実施した。
		・高度資格試験(英検2級、ビジネス文書1級等)の受検者数増加と受験者の60%以上の合格		B	・英検2級1名、ビジネス文書実務検定1級1名、情報処理検定1級2名、商業経済検定1級1名と高度資格に合格した。受検者の66%が合格した。	A	
			・テーマ学習を深化させ課題解決能力を高める	・地域経済分析システム(RESAS)を活用した米子市中心市街地活性化基本計画の構築と地方創生アイデアコンテスト及び高校生ビジネスグランプリへの応募	B	・RESAS出前講座を予定通り実施し、地方創生政策アイデアコンテストにも予定通り応募した。学習成果発表会は具体的な研究成果を発表し、その内容について米子市長への提案を行い高い評価を得た。	B
2 豊かな人間性の育成	○基本的生活習慣の定着	・遅刻者数は前年比12%(R1)増加した。届出の徹底を含め、更に規範意識を向上させる必要がある。より一層主体的に活動する意欲を高める必要がある。	・遅刻者数を前年の15%減を目指す	・遅刻確認票による遅刻指導の更なる強化	C	・遅刻確認票の運用で遅刻者の減少に効果が見られた。遅刻者数は前年比14%減で目標に届かなかった。	B
			・規範意識の向上と掃除の徹底	・米子高校生としての自覚を促す行動の啓発(問題行動ゼロ)SNS対策を中心とする情報リテラシー教育の推進	B	・SNSに起因する問題行動があったが、昨年度より件数は減少した。講演会を実施した。	B
				・自転車ヘルメット着用推進モデル校として安全意識向上を図り、着用率20%以上となるよう機会を捉えて啓発・指導	D	・安全意識の高揚と啓発に努めたが、ヘルメットの着用率は15%であった。	C
				・掃除の徹底と整理・整頓の推進	B	・3年生は率先して黙々と取り組んでいる生徒の姿が見られたが、他学年は更なる整理整頓の推進が必要。	B
	○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)	・問題行動ゼロは達成できなかったが、殆どの生徒が規範意識を持って生活している。	・生徒の各種活動への積極的参加を促す	・生徒会執行部による各種自主的活動の充実	B	・コロナ禍で大変な中、生徒は積極的に活動を行った。	B
				・部活指導員・外部指導者の活用による部活指導の充実と時間外業務(月45時間以下、年間360時間以下の遵守)削減	C	・コロナ禍で活動制限されたこともあり、業務削減となった。	B
				・韓国造形芸術高校の交流受け入れ ・生徒会による「はるかかのひまわり植栽プロジェクト」の実施	C	・コロナ禍の影響で韓国との交流事業は中止となった。、はるかかのひまわり絆プロジェクトは成果をあげた。	B
	○支援が必要な生徒への援助	・自転車ヘルメット着用は2%である。	・生徒情報を共有し適切なサポートを行う	・研修会による情報共有と委員会等による適切な対応	B	・外部機関(SSW、児相、医療機関、要対協)との連携を密にし、早期に対応することができた。また、研修会により情報共有を図った。	B
			・豊かな人間関係を築き、共に生きる力を育み、主体的に考え行動できる生徒の育成	・高校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答する生徒が80%を超えるようきめ細かにサポート	B	・学校生活アンケート(1月)で自己肯定感を認める生徒が9月より3%増加し59%、どちらともいえない36%を減らすことが課題。ハイレベル講座等で自己肯定感を高めることができた。 ・人権教育LHRではワールドカフェ形式やゲストティーチャー等の取組で意見交換を活発化させることができた。	B
				・人権教育LHRで活発な意見交換を行い、人権問題について主体的に考えて行動ができるLHRの仕組みの構築			
3 自己実現のための進路指導の充実	○キャリア教育の発展	・産業社会と人間・プレテーマ学習・テーマ学習が進路実現に反映されている。 ・大学進学者が減少(H30年25名(内、国公立9名)、令和元年20名(内、国公立3名))	・教員の指導力向上と外部指導者の活用	・総合的な学習の時間における各種講演会の充実と系統的なキャリア教育の構築	B	・1年産社や3年テーマ学習などで予定通り講演会を実施することができた。	A
				・キャリアパスポートを活用し、自らの成長を実感できる取り組み	B	今年度より計画どおりキャリアパスポートの作成を始めることができた。今後、活用方法について検討が必要である。	B
				・学習成果発表会における他校生徒との連携	B	・コロナに細心の注意を払いながら学習成果発表会を無事に開催できた。他校招聘は感染症対策で中止した。	B
	○進路指導の充実		・大学進学25名、(内、国公立大学5名)の合格を目指す ・生徒に高い目標を設定させ、希望の進路を実現させる	・教員研修と進路希望検討会を充実させ、キャリアパスポートを活用した大学入試改革への対応	B	・進路希望検討会を予定どおり実施し、入試制度改革に対応できるよう教員研修も実施したが、大学18名(内国公立大2名)と目標は達成できなかった。キャリアパスポートの効果的な活用が課題である。	C
				・看護系進学希望者の職場体験の実施と進路実現	B	・看護医療系の職場体験が実施できなかった。	C
4 地域との連携による学校づくり	○地域のニーズに応じた地域貢献	・地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。 ・学校運営協議会を導入したが、具体的な活動に至っていない。	・文化芸術活動の拠点校として、地域のニーズに積極的に応える	・部活動における各種イベントの開催と参加	B	・新型コロナウイルスの影響でイベントの中止が相次ぎ、施設訪問もできなかったが、ハイホットダンスフェスティバル、吹奏楽部定期演奏会、演劇公演を開催できた。	B
				・学校運営協議会を活用した地域連携活動の推進	A	・はるかかのひまわり絆プロジェクトを実施して、幼小中との連携した植栽活動が行えた。	A
				・中学校アクティブ・ラーニング出前授業、地域の教育活動拠点としての生徒活動の活発化	B	・アクティブラーニング出前授業はコロナ禍の影響で実施できなかった。	C
				・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」による地域貢献の推進	A	・植栽活動は予定通り実施できた。イチゴ収穫はDVDでの交流とイチゴを運び収穫会食につながった。	A
	○積極的な社会参画と情報発信		・社会につながる教育活動を推進する	・「高校生出前キャリアガイダンス」の充実	B	・予定どおり実施し、高評価であった。	A
				・総合美術展の開催による情報発信	B	・コロナ対策を行い、予定どおり実施し情報発信できた。	A